ぼく、デイヴィッド

ポーター作　中村妙子訳　岩波書店

十歳の少年デイヴィッドは、父さんと二人きり、山でヴァイオリンを習いながら暮らしていました。しかし、山を降りる途中に立ち寄った納屋で父さんは亡くなり、農場に引き取られることになります。

自分の苗字さえ知らず、あらゆる感動をヴァイオリンで奏でる無邪気な存在に、周りの人たちは手をやきます。けれども、言葉を話すように感情があふれでる、デイヴィッドのヴァイオリンの音色に、不思議と安らいだ気持ちになるのでした。